



HASHIMOTO ART OFFICE

Yabe Bldg.2F 3-5-5 HigashiNihonbashi Chuo-ku Tokyo 103-0004 JAPAN

Tel & Fax 03-5641-6440 | info@galleryhashimoto.jp | galleryhashimoto.jp

Press Release

2016.4.28

やかましい鐘

青木野枝 開発好明 津上みゆき

小森はるか+瀬尾夏美 百瀬文、Edition R

2016.6.11（土）—6.25（土）

12:00—19:00 日月祝休廊

※オープニングレセプションの予定はありません。



青木野枝



開発好明



津上みゆき



小森はるか+瀬尾夏美



百瀬文

ギャラリー・ハシモトでは、ギャラリー企画グループ展「やかましい鐘」を開催致します。震災から丸5年、6年目を迎えた今年、九州でも大きな地震が起こり人々を不安にさせています。あの時よりも私たちはずっと当事者意識の中で今を過ごしているのではないのでしょうか。何が必要で、何が足りないのか、何を欲していて、そこから選ぶものは何なのか…それぞれ考えていることでしょうか。今回は、弊ギャラリーで発表を行う、また発表経験のある作家によるグループ展を企画しました。作家もまた「作品」という表現することを選び活動しています。何を思考した先に「表現」があるのか、作品と言葉を合わせてご覧いただき、思考のきっかけとしていただけましたら幸いです。



HASHIMOTO ART OFFICE

Yabe Bldg.2F 3-5-5 HigashiNihonbashi Chuo-ku Tokyo 103-0004 JAPAN

Tel & Fax 03-5641-6440 | info@galleryhashimoto.jp | galleryhashimoto.jp

そもそも鐘の音は聞こえているか

作品と言葉の関係について考えてみたいと思う。ある意味では、作家にとっての言葉は作品なのかもしれないが、作家が発する言葉がどのように機能し、どのような形で残されていくのか、作品の一端に関わる者としてとても興味を持っている。作家の死後も作品は残り続ける。ある作家が言うように、現存する作家の唯一絶対的優位とは、今を生きて“作品”をより未来へ残すことができるということ、それに尽きるのだろう。

作品の多くは、批評家、企画者、研究者、鑑賞者などによって残されてきた。勿論、作家の言葉もないわけではない。しかし、作家は自分の言葉についてどのように捉えているのだろうか。作品との関係性をどう考えているのだろうか。個人的には、作品に詰め込まれた思考の断片を巡る余白の中で、さらに深く潜るきっかけになるものとして、そして、作品を正しく残すものとして機能してほしいと思っている。

2011年3月11日から6年目を迎えた今、作家それぞれが向き合った表現するということが、何かを選び取っている行為だとすると、私たちの日常や目の前で起こることの様々な問題を考えることと繋がっていくのではないかと考えている。何があなたにとってのやかましい鐘なのか、そしてその鐘の音はそもそも聞こえているのか。作品と言葉を見て読むことで、少し離れてしまったと感じることを思い出したり、考えたいことに気付きたいと思っている。

企画担当：金森千紘

やかましい鐘

出品作家：青木野枝 開発好明 津上みゆき

小森はるか+瀬尾夏美 百瀬文、Edition R

会期：2016.6.11（土）—6.25（土）

12：00—19：00 日月祝休廊

※オープニングレセプションの予定はありません。



会場では、作家のテキストをまとめたリーフレットを200円で販売致します。作品と合わせてご覧ください。

※リーフレット参考画像